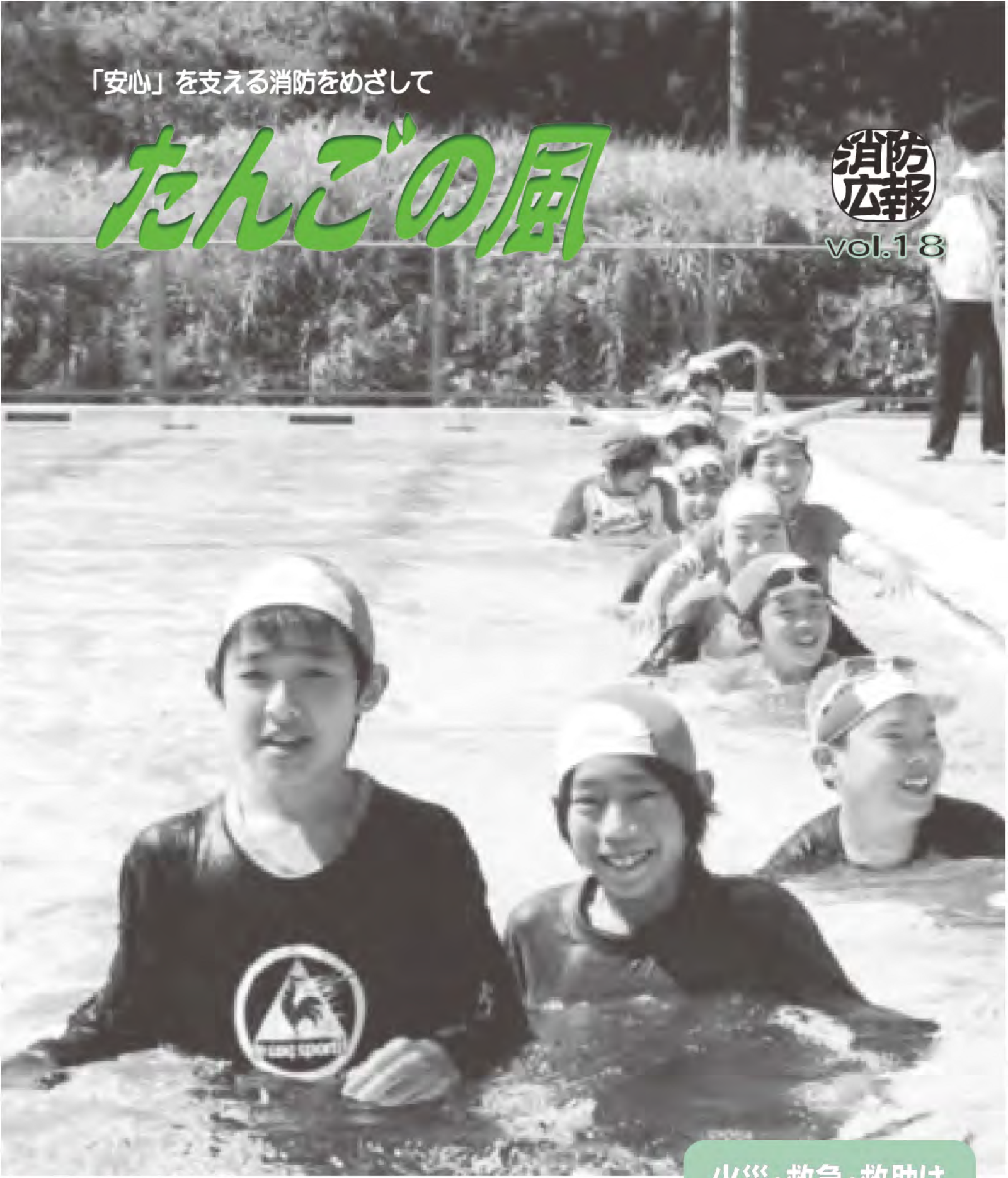
「安心」を支える消防をめざして

たんごの風

消防広報

vol.18



網野南小学校で着衣泳を体験、なんだか楽しそうです。

特集・・・誘導灯と煙 逃げ遅れないために

家庭に潜むトラッキング現象

防げるトラクターの横転事故

火災・救急・救助は

119

（携帯電話も同じです）

誘い導く灯（さそいみちびくあかり）

避難口誘導灯

通路誘導灯

避難口誘導灯や通路誘導灯は、ともに緑色に光る表示灯になっていますが、避難口誘導灯は緑色の地に白文字で、通路誘導灯は白地に緑文字という違いがあります。避難口誘導灯は、階段などから安全に避難できる場所や、屋外に出る扉の上部に設けられ、通路誘導灯はそのような避難口につながる廊下、通路に設けられます。

日本では、緑色を安全色とみて使用していますが、外国では必ずしも緑ばかりでなく、赤色や黒色を使っている例もあります。以前は「非常口」という文字表示でしたが、現在はピクトデザインという絵文字表現になり、デザイン的にも優れたものになっています。これによって、子供や外国の方でも一目見れば避難できるようになっています。

見たことありますか。緑や白に光る誘導灯。

私たちの生活で何気なく見かける誘導灯は、初めて入った建物の中で真っ暗になったときや、煙が充満したときなど、私たちの命を守る大切な灯りです。しかし、誘導灯の意味を知らなければ、安全に屋外に避難することはできません。正しい避難方法を身につけることで、誘導灯は誘い導く灯りとなります。

迷わないために

誘導灯は消防法により、不特定の人が多数出入りする建物に設置されています。火災のときには、停電や煙で周りが見えなくなり、どこに逃げていいのか分からなくなります。そんなとき役に立つのがこの誘導灯です。また、停電でも専用の電池が入っているため、20分間は点灯します。通路誘導灯は、煙の中でも確認できるように壁の低い位置、床に付いているものもあります。

建物に入ったらまず誘導灯を確認する習慣を身につけてください。

命を守るために

私たちを安全な方向へ導いてくれる誘導灯ですが、明りが消えていたり、物が山積みで位置がわからない。また、逃げるための廊下、階段、防火戸の前に物が置いてあり、避難できない状態では、まったく意味がありません。このような建物の中にいるときは「ここは危険な場所」と思うことが大切です。どんな建物でも常に整理整頓してあることが、避難の一歩となり、命を守ることになります。

防火戸の前に物が山積みで閉まらない。
せっかくの防火戸なのに・・・

煙知っ得

煙の流れと速さ

■煙は火災で熱せられると空気より軽くなり上昇します。

■上昇した煙は、天井までのぼると横方向に広がります。

■煙の量が増えると、床近くまで下がってきます。

■廊下などを水平に広がる煙は、火元から遠ざかると冷却され、重くなって下降し、視界をさえぎるようになります。

■煙の速さは、水平方向へ進む場合は1秒間に0.5から3m（人の歩く速さ）、垂直方向へ進む場合は3から5mになります。垂直方向では人の歩く速度より早いので、階段などでは特に注意が必要です。

煙の恐怖

■火災で発生した煙に含まれるガスは、燃焼に伴う酸素不足と高熱で、人の思考力や判断力を鈍らせ、避難を難しくさせます。また、一瞬のうちに体の機能を停止させ、中毒、窒息により死に至ることがあります。

煙の中で避難する方法

- タオルやハンカチで口を覆い、煙を直接吸わないようにする。
- できるだけ低い姿勢をとり、床スレスレに残っている空気を吸うようにする。
- 避難するときは、燃えている部屋のドアを閉めて逃げる。
- いったん避難したら再び戻らない。
- 煙で前が見えない場合は、壁に手を当て方向を確認しながら避難する。
- 鼻から吸って口から吐くの呼吸を繰り返す。
- 下の階へ避難することが基本。
- エレベーターは使わない。

●誘導灯の前に立っている人わかりますか

写真1
誘導灯だけの明りで人が立っている状態

写真2
白煙が充満した状態

逃げ遅れないために

写真1ではなんとか人の姿を確認することができます。写真2の白煙が充満した状態では、かろうじて誘導灯がわかる程度ですが、火災の初期には白煙であったものが、黄色に変わり、それがさらに黒煙に変わったときには、ほとんど視界がなくなってしまいます。

黒煙になると、住み慣れた家でも、方向感覚を失い避難に時間がかかってしまいます。危険を感じたらすばやく避難することが大切です。決して戻ってはいけません。

家庭で避難訓練

全国では、毎年6万件を超える火災が発生し、約2千人の尊い命が奪われ、そのほとんどが逃げ遅れによるものです。

人は火災に直面するとパニック状態になり、大きな建物では、防火戸が閉まると普段と様子が一変し、いつも通っている通路や階段でさえも分からなくなることがあります。

どんな場所にいるときでも、二つ以上の逃げ道を確認してください。誘導灯がある場所では、常に位置を確認し、いちど屋外の安全な場所までたどってみることも大切です。

家庭においても二つ以上の逃げ道を作り、暗やみでも避難できるか家庭で試してみてはどうでしょうか。

火のないところに火災

家庭に潜むトラッキング現象の危険

火事の原因でよく知られているのは、タバコやコンロなど、直接火を使う器具であることが多いのですが、最近は火のないところから火事になるケースが増えています。その中で注目されているのが、**トラッキング現象**といわれるものです。

どんな現象なの

トラッキング現象とは、長年コンセントに差したままの状態で使用しているプラグにほこりがたまり、そこに湿気が加わることで火花を発し、これを繰り返すうちに火事を引き起こすほどの炎になる現象です。

電化製品に囲まれた現代、みなさんのご家庭にも起こる可能性のある現象です。普段家具の後ろなどにかくれていたり、長い間差したままのコンセントはありませんか。

トラッキング現象の特徴を知り、家庭にひそむ危険箇所を見つけ出しましょう。

トラッキング現象のすみか

トラッキング現象が好むのは、ほこりと湿気です。

次のような場所は、特に気をつけましょう。

- 洗面所や台所など湿気が高く、水滴などが直接かかるところ
- 家具などの裏側で、長期間差し込んだままのところ
- エアコンや暖房器具など、結露の生じやすいところ
- 熱帯魚や金魚などの水槽に使用されている電気器具

トラッキング現象は、火が出るまでに期間があり、たとえその場にいても気づきにくく、発見も遅れがちになります。

トラッキング現象のしくみ

コンセントとプラグの間にたまったほこりなどに湿気が加わることにより、プラグの両極間に微電流が流れて、火花放電を繰り返します。

その後、放電により炭化した部分から発熱・発火し、カーテンや壁紙などの燃えやすいものに着火し、ついには火事を引き起こします。

日ごろの点検が大事

トラッキング現象を防ぐには、日頃の点検と掃除が大切です。大掃除のときなどには、必ず点検と掃除を行いましょう。

- 差しっぱなしのプラグを抜き、乾いた布などで掃除をする。
- 使った後はプラグを抜く。
- 長期間使わないときは、プラグを抜いておく。
- プラグは、しっかり奥まで差し込む。

最近は、**トラッキング現象**を防ぐためのいろいろなグッズも販売されています。取り付けも簡単なものが多く、有効な防止策のひとつになります。

しかし電気が原因の火事は、**トラッキング現象**だけではありません。少しでも異変を感じたり、不具合な箇所をみつけたときは、電気店などの専門業者に相談してください。

電気製品に囲まれた、安全に思える生活の中でも、人の不注意により「火のないところ」に火事は起きています。

防げる事故なのに

トラクター横転事故

収穫を終えた田んぼにトラクター、この時期丹後地方でよく見かけられる風景です。昔と違い農業も機械化が進み、多くの家でトラクターやコンバインなどを使用するようになりました。これに比例するように、農作業中の事故も増えています。なかでもトラクターの転落・転倒によるものが多く発生しています。

機械は便利なものですが、ひとつ間違えば大事故につながる危険をはらんでいます。いま一度安全について考えてみましょう。

原因は人災

トラクターによる事故は、田んぼの出入口、あぜ道、道路などで発生しています。

その状況を見ると、田んぼへ出入りする際の速度超過、後部ロータリー部分の位置の不適、無理なあぜ越えなどによる転倒や、夜間作業による視認障害、不点灯での走行中に一般車両と追突した場合などがあります。なかには操作の未熟さによるものや、巻き込みによる事故などもあります。

命にかかわる事態に

農作業中の事故は重傷になる確率が非常に高く、なかでも高齢者が犠牲になる場合が多くみられます。

また一人で作業することが多いため、発見が遅れることも要因のひとつです。

トラクターの重さは、ほとんどが重量1トン前後と重く、横転などで下敷きになった場合、圧迫による呼吸困難や、田んぼに水没して窒息するなど、命にかかわる状況となります。

防げる事故です

このような事故に巻き込まれないために、次のことに気をつけましょう。

一瞬の油断が大事故のもとに

- ★田んぼへの出入りは、低速で行う。
- ★ロータリー位置など、車体の重心に気をつける。
- ★無理なハンドル操作、速度の出しすぎはやめる。
- ★夜間は必ず点灯する。

販売メーカーも安全フレームの取り付け、反射板の貼り付けなど、事故防止対策を呼びかけていますが、まずは自分にできる安全対策・行動を確実に行い、機械という便利さとうまく付き合っていきましょう。

救急一口メモ

毒ヘビにかまれたら

こんにちは、久美浜分署救急隊の吉岡です。今回はヘビ咬傷についてお話しします。

九州以北の陸上に生息する毒ヘビは、マムシとヤマカガシの二種類です。体長はマムシが70センチ以下で、ヤマカガシは約80～120センチです。

マムシに咬まれると激痛を感じ、短時間で患部が疼痛を伴って大きく腫れてきます。毒のまわりは遅いのですが、小さな子供や高齢者では死亡することもあります。

救急救命士
吉岡　寛

ヤマカガシの場合はすぐに痛みや腫れなどはでませんが、血液の凝固作用を失わせるため数時間後に歯ぐきや古傷からの出血、血尿などの全身の出血傾向が認められます。

咬傷を受けた場合は、慌てず消防署などに連絡をとり、やむなく移動する場合でもゆっくりと移動してください。

フォトキャッチ

7/15 網野高校間人分校の生徒が救命講習

1・2・3・・・しっかりと押さえて

マウストoマウスで　少し難しいかな

押さえる位置が大切です

7/17 網野南小学校６年生が着衣泳

服を着てると泳ぎにくいぞ～

ペットボトルでも浮いちゃいます

7/2 臨海学校で救命講習　奈良県立添上高校

すごい熱心さです

民宿の大広間を使っての救命講習

消防&病院 連携スムーズに

看護師さんが一日救急隊員

9月4日

バックボードで全身固定
首などの損傷をふせぐ処置です

これで救急現場が確認できるんですね

一日体験をされた看護師さんです
お疲れさまでした
弥栄病院の行待さん(左)久美浜病院の松田さん(右)

こんなものまで装備されています

夜の海、流された女性を救助

7月14日の夜、網野町の浜詰海水浴場で泳いでいた女性が沖合いに流され、友人から助けを求められた長塚良介さんは、ライフセイバーの永吉浩二さんに連絡をとり、無事女性を助け出しました。夜の海という危険な状況での二人の勇敢な救助活動に、峰山消防署から感謝状を贈りました。

感謝状贈呈

■ お二人のコメント

私たちの他にも、海の仲間が救助に協力してくれました。その全員の連携で無事に救助でき、うれしく思います。

永吉 浩二さん　　長塚 良介さん

たんごの風 第18号
2003年10月1日発行（年4回発行）
発行/丹後広域消防組合　〒627-0011 京都府中郡峰山町字丹波826-1 TEL 0772-62-0119 Fax 0772-62-6119
管理課 TEL 0772-62-8129　予防課 TEL 0772-62-5119
編集/丹後広域消防組合広報委員会（総務課内）　TEL 0772-62-8119（ダイヤルイン）

消防の広場

悪質 消火器の訪問販売

ポイント1　一般住宅に消火器の設置義務はありません。

消火器を備えていると、もしもの火災に大変役立ちます。しかし、一定規模以上の事業所を除いて、消火器を設置する義務はありません。強引に購入をすすめるような業者には気をつけましょう。

ポイント2　消防署員が消火器を販売することはありません。

「消防署の方から来ました」と消防署員を装い消火器を販売するケースをよく耳にしますが、消防署員が消火器を売ることはありません。

ポイント3　トラブル防止のポイント

- もしも不審に思われたら、次のことに注意してください。
- 書類（契約書）にハンコを押さない。
- はっきり断る。
- 相手が脅迫的な言動に出たときは、警察へ通報する。

ポイント4　クーリングオフについて

消費者保護を目的とした訪問販売法では、クーリングオフ（解約権）が認められています。

（注）企業の「営業のため」の売買契約はクーリングオフの適用から除かれています。

●消火器の購入や点検でご不明な点があれば、峰山消防署または 京都消防設備協会までお問い合わせください。

京都消防設備協会丹後北部代表
丹後水道（株）　62-2131
茂籠電気工業　68-0203

秋の火災予防運動

11月9日～11月15日まで

空気が乾燥して火災が起こりやすい季節になりました。
冬場に向かい、ストーブなどさらに火の取扱いには注意してください。

全国統一標語

その油断　火から炎へ　災いへ

知っていますか 救急看板

皆さんは、海水浴場に行ったときに、この番号の入った看板を見たことがありますか。

これは広い海岸での災害時に目印となり、いま自分がいる場所をまわりに伝えるのに役立ちます。看板の場所、番号は消防署でも把握していますので、救急車をお願いします」と伝えてもらえれば、直ちにその場所へ向かうことができます。今年の夏も出動時には、大変役に立ちました。

皆さんも、海水浴場に行く機会があれば、この救急看板を確かめてみましょう。

編集後記

「運が悪かったんだ」■お盆に某町公民館の原爆資料展で耳にした、見学を終えた若者のすれ違いざまの言葉。決して歴史から消すことのできない悲惨な体験を多面的に捉え、全ての想像力を駆使して自分の身に置き換え考えてみようとする一片の姿勢もない一言■戦争や災害での人の生き死にを、なぜたった一言で片付けられるのか、その心の奥底をできるものならのぞいてみたくなりました。

お知らせ

消防署へのお問い合わせは office@119tango-kyoto.or.jp でも受付けております。
このメールアドレスは火事や救急などの119通報には利用できません。